

【授業科目】在宅看護学概論

Introduction to Home care Nursing

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
多次 淳一郎	2年次前期	必修	1	15	講義	あり	卷末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要 / 本科目は、人々の「暮らし」を国際生活機能分類 (ICF) モデルの構成概念である「健康」「環境」との関連から捉える意義とみかたを学ぶ。また、地域で暮らす人々を支える看護や医療保健福祉のしくみについて学ぶ。講義はレジュメを中心に教科書、視聴覚教材を用いて行い、一部の単元でゲストスピーカーによる講義を行う。課題に対するフィードバック方法 / 各回の授業カードで感想・質問を収集し、次回以降の講義時にコメント・回答し、全体で共有する。提出課題については、総評コメントを資料として受講者に配布する。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>① 暮らしをみることの意義を説明できる。 ② 暮らしをとらえる視点となる理論・モデルを説明できる。 ③ 暮らしが成り立つよう支える制度、社会資源の概要を説明できる。 ④ 暮らしが成り立つよう支える看護活動の概要を説明できる。</p>							
時間外学習に必要な内容・時間	<p>課題 ①地域に根づく文化、風習に関する資料を読み、それらが人々の暮らしや健康にどのように影響しているか考察し、レポートにまとめる。(第1回指示、第4回提出) ②自身の暮らす地域について、特定の対象(要介護高齢者、医療的ケア児、等)を支えるケアシステムを調べ、エコマップとしてまとめる。(第7回終了時指示、第8回終了時提出) 事前・事後学習 事前学習：教科書の該当・関連箇所をおよび随時提示する参考図書等を読み、まとめておく(各30分) 事後学習：同日の学習内容をふりかえり、整理しておく(各30分)</p>							
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 「暮らしと看護」「暮らしのみかた」【課題①指示】 第2回 暮らしをみる① 「健康と暮らし」(小演習含む) 第3回 暮らしをみる② 「環境と暮らし」(小演習含む) 第4回 暮らしをみる③ 「暮らしの自立と自律」【課題①提出】 第5回 暮らしをみる④ 「自立して暮らす、ということ」(ゲスト) 第6回 暮らしを支える① 「暮らしを支える看護」(小演習含む) 第7回 暮らしを支える② 「フォーマルな支援と多職種・機関連携」(小演習含む)【課題②指示】 第8回 暮らしを支える③ 「インフォーマルな支援と地域包括ケア」、まとめ【課題②提出】</p>							<p>全て 多次</p>
評価方法 評価基準	<p>課題 30% (①②各 15%)、小演習 20% (計 4 回の小演習で各 5%)、試験 50%で総合的に評価する。</p>							
教科書	<p>・河原加代子, 他著『系統看護学講座 地域・在宅看護論の基盤 地域・在宅看護論1』(第6版1刷) 医学書院 ・河原加代子, 他著『系統看護学講座 地域・在宅看護論の実践 地域・在宅看護論 2』(第6版1刷) 医学書院</p>			参考書等	<p>講義の中で適宜紹介</p>			
学生への助言等	<p>本科目を通じて、「暮らし」を改めて意識化し、それに着目し、捉えることの意義を理解し、その基礎的視点を習得されることを期待します。 本科目での学びは在宅看護学関連の科目のみならず、臨床看護においても基盤となる考え方・知識になりますので、常に他科目や実習(実践)とのつながりを意識し、積極的に学ばれることを期待します。</p>							